

橋本欣五郎 陸軍軍人。ケマル=パシャに共鳴、国家改造を志し(桜会)結成、<三月・十月事件>首謀し、A級戦犯に。

はしもと きんごろう
帝国議会始・1890 = 岡山市で、回漕店主橋本鶴吉の四男に生まれる。

日清戦争始・1894 = 4歳 :

八幡製鉄始・1897 = 7歳 : 福岡県門司市に移る。

Bushidou・・1899 = 9歳 :

高等小学校から、

日露戦争始・1904 = 14歳 : 熊本陸軍地方幼年学校に入学。

日露戦争終・1905 = 15歳 :

アヲヲ 創刊・1908 = 18歳 :

伊藤博文暗殺1909 = 19歳 : 陸軍中央幼年学校を経て、陸軍士官学校(23期)に入学し、

大逆事件判決1911 = 21歳 : 卒業、少尉に昇進し、野砲兵第24連隊附となる。

明治天皇没・1912 = 22歳 :

大正政変・・1913 = 23歳 : 陸軍砲工学校高等科に入学し、

第一次大戦始1914 = 24歳 : <第一次世界大戦>に日本が参戦した<青島戦役>に従軍し、中尉に昇進。

21ヶ条要求・1915 = 25歳 : 卒業し、

民本主義・・1916 = 26歳 : 砲工学校生徒隊附となる。

ロシア革命・1917 = 27歳 : 陸軍大学校(32期)に入学、

大暴落・・・1920 = 30歳 : 大尉に昇進し、卒業。

原敬首相暗殺1921 = 31歳 : 参謀本部付(ロシア班勤務)から、

水平社結成・1922 = 32歳 : 関東軍司令部のハルビン特務機関を経て、

関東大震災・1923 = 33歳 : 満洲里特務機関長となる。

治安維持法・1925 = 35歳 : 参謀本部に戻り、

円本時代始・1926 = 36歳 : 少佐に進む。

金融恐慌・・1927 = 37歳 : トルコ公使館付武官となり、ケマル=パシャの改革思想に共鳴、日本の国家改造(革命)を志し始める。

海軍軍縮条約1930 = 40歳 : *帰国して参謀本部ロシア班長となり、中佐に進級後、中佐以下の有志を募り、国家改造を終局目標とし、武力行使をも辞せずとする秘密結社的存在の(桜会)を結成、

満州事変・・1931 = 41歳 : *宇垣系中堅軍人、大川周明・清水行之助らの右翼、一部の無産党員などとともに宇垣一成を擁してクーデタによる軍事政権樹立を企てたが未発に終る<三月事件>。また、満州事変に際しては事変遂行を国内で支援するとともに、長勇・田中弥らと再度のクーデター計画を企てたが、事前に情報が洩れて未遂に終り、他の首謀者とともに保護検束され<十月事件>、重謹慎処分を受けて左遷され、野戦砲兵第10聯隊付に転出。

帝人疑獄事件1934 = 44歳 : 野戦重砲兵第2聯隊長として復帰し、大佐に進級、

芥川直木賞始1935 = 45歳 : 三月・十月事件及び満州事変についての記録を手記「昭和歴史の源泉」として書き上げ、五部複写し、それぞれ同志だった長勇少佐・小原重孝大尉・田中弥大尉・天野勇中尉に渡し、残り一部を自ら保存。

二二六事件・1936 = 46歳 : <二・二六事件>の際は、上京して天皇大権による維新断行を骨子とする収拾策を提示したが容れられず、肅軍人事で予備役に編入されると、

日中戦争始・1937 = 47歳 : *日中戦争の勃発に伴い、再び召集され、野重砲兵第13連隊長となるが、南京攻略戦の際に、アメリカの砲艦バネー号を撃沈し死傷者を出し、さらにイギリス砲艦レディバード号にも被害を与えたため、責任を取って、陸軍砲兵大佐で退役。国家社会主義系右翼とともに(大日本青年党(のち大日本赤誠会に改称))を結成して統領となつてファシズム運動を展開、近衛文相首相が掲げる新体制運動にも積極的に協力した。

大政翼賛会・1940 = 50歳 : 大政翼賛会常任総務となり、

日米開戦・・1941 = 51歳 :

・・・・・1942 = 52歳 : 翼賛選挙で衆議院議員に当選した。

年金+総武装1944 = 54歳 : 大日本翼賛壮年団副団長。中央本部長となるが、

敗戦・・・・1945 = 55歳 : 退任。敗戦後、"A級戦犯"に指定され、極東国際軍事裁判の際には、全被告の中で唯一アメリカ人弁護士がつく事を頑なに拒み続け終身禁錮の判決を受ける。

独立回復・・1951 = 61歳 :

TV放送始・・1953 = 63歳 :

55年体制始・1955 = 65歳 : 仮釈放後も、国家改造を志す野心は変わらず、

国連加盟・・1956 = 66歳 : 第4回参議院議員通常選挙全国区に、政党の公認や資金も無い事から、周囲が止めるのも聞かずに無所属で立候補して、落選し、

なべ底不況・1957 = 67歳 : 肺病のため没した。